

テロと拝金主義で後退する世界の人権

Human Rights in a time of terror

NIジャパン No.96 2008年1/2月合併号
テロと拝金主義で後退する世界の人権

< 内容 >

(本文は日本語です)

- 2 イントロダクション - 人権について考えてみる
4 考えるためのネタ帳

6 テロへの不安と今日の人権状況

今日、ビジネスという名の拝金主義が人権向上を妨げ、そしてまたテロとの戦いというたいの知れない考えと実践が、人権をふみにじっている。テロへの不安と拝金主義に包まれたこの世界でおびやかされる人権の状況を探る。

12 オリンピックは中国の人権状況を改善できるのか

国際オリンピック委員会 (IOC) がオリンピック開催地として北京を選んでから7年が過ぎた。開催地決定にあたりIOCは、人権状況の向上に取り組むよう中国にくぎを刺し、北京オリンピックが中国の人権状況を改善するきっかけになると期待した。果たして北京オリンピックは、IOCの思惑通りの役割を担うことができるのだろうか。

17 メダルにはほど遠い中国における人権 中国の人権の現状についてレポートする。

19 中絶で生きられたはずの母の訴え

いかなる理由があろうとも妊娠中絶が禁じられていたコロンビア。そのためひとつの命が救われたが、他のひとつの命が35年というあまりにも短い年月で失われることになった。しかし、35歳で生涯を閉じたマーサの訴えは、この国の妊娠中絶法を変える原動力となった。

25 人権 その事実

経済的、社会的、文化的な権利の現状と見通しを、ミレニアム開発目標 (MDGs) と現在のデータを通して見てみよう。

32 「権力への執着を打ち負かす愛情の力」

混沌とした社会的・経済的・政治的な状況が続くジンバブエ。そんな中であっても、連帯と非暴力で権力者に立ち向かう市民団体の行動と主張について紹介する。

36 水という基本的な権利を守れ

人間が生きていくのに不可欠な水。その水が、公的な水供給事業の民営化によって、貧しい人々の手の届かない値段になってしまうという問題が世界各地で起こっている。ネパールから、そんな動きを阻止したグループの活動を紹介する。

40 もっと知るためのネタ帳

42 世界の国のプロフィール: カザフスタン

NIジャパンは、NIからの翻訳記事を中心に構成されています。

NI (英語、A4・カラー、約40ページ) と日本編集のNIジャパン (日本語、A5・モノクロ、約48ページ) をセットでお届けします。

【定期購読 (1月と2月は合併号のため年11回発行)】

NI & NIジャパン	1年 (11冊) = ¥10,500	2年 (22冊) = ¥19,000
NIジャパンのみ	1年 (11冊) = ¥5,000	2年 (22冊) = ¥9,000
NIのみ	1年 (11冊) = ¥8,000	2年 (22冊) = ¥14,000

【一部のみの販売: 最新号 / バックナンバー】 > ¥400 ~ ¥1,000



2008年、世界人権宣言は60周年を迎える。そしてまたこの年、甚だしい人権侵害で知られる中国で、オリンピックが開催される。これまで人権を擁護し、60年前には世界人権宣言の起草に携わった同じ国々が、現在では人権よりも何よりもテロとの戦いが優先されるとの決定を下している。これまで何年もかけて苦労して改善されてきた人権の状況は、ここにきて思いがけないことに後戻りしている。今までも真剣な取り組みと行動が不十分であった社会的、経済的な権利にいたっては、テロとの戦いが優先されているために、いまや全く顧みられることもなくなってしまった。人権に関する国際的な「仕組み」が、かつてないほどたくさんつくられているようではあるが、人権に吹く逆風は非常に強いものだ。

今月のNI & NIジャパンでは、困難な状況を世界各地から報告するとともに、困難に立ち向かって人権擁護のために目を見張る活動をしているグループを紹介する。

NI No.408 Jan./Feb. 2007
Human Rights in a time of terror

< 内容 >

(本文は英語です)

個人の幸福とは～性的権利
極右、キリスト教、ネオナチなど、ポーランドとラトビアは同性愛者にとって住みやすい安全な国ではない。しばしば暴力に遭いながらも、同性愛の人々は性的権利を求めて闘っている。

団結と抗議～労働組合の権利
会社だけでなく、国家とも闘わなければならないイラン

の労働者たち。不払い賃金の支払を求めてデモやストライキをすれば、当局に逮捕されて投獄されてしまう。それでもめげずに労働者の権利擁護を掲げて活動する組合員の取り組みを紹介する。

人権に関する国際的な条約について

国連憲章から世界人権宣言、もっと最近になって採択された児童の権利に関する条約 (子どもの権利条約) から障害者の権利に関する条約まで、各条約のエッセンスを掲載する。

マクシム・マクシモフを殺したのは誰だ

ロシアでは、プーチンが大統領に就任した2000年以降に殺害されたジャーナリストのうち、自ら追っていた微妙な問題の取材が原因で殺されたジャーナリストは14人に上る。内務省の汚職対策局の担当官の不正を暴いたマクシム・マクシモフも2004年6月に失踪し、いまだに多くの謎が残されたままである。

このほかの記事の詳細はウェブサイトをご覧ください

* ホームページでは、購読お申し込みやバックナンバー照会、無料メールマガジン申し込み等がご利用頂けます。

< お問い合わせ・お申し込み >

ニュー・インターナショナリスト・ジャパン 有限会社インティリンクス

〒182-0035 東京都調布市上石原1-36-6 西調布シティ303

Tel / Fax : 042-498-3126

E-mail : nij@ni-japan.com

URL http://www.ni-japan.com

